



暮らしの中の「仏教語」

何気なく使っている
こんな言葉も実は
仏教由来の言葉

人と会ったときや、別れるときに交わす言葉を「挨拶」と言いますね。

「おはようございます」「こんにちは」以外にも、「お加減いかがですか」「お天気も良くて何よりですね」など、相手の健康状態を気遣ったり、お天気などを話題にすることもあります。ほかに、相手への敬意や親愛を表したりするもので、人間関係を円滑にし、社会生活を送るうえでは大切なものです。

さて、この「挨拶」という言葉は、「ご挨拶」と

「(御)」の接頭語を付けければ、敬語の用法になります。それ以外にもおもしろいところでは、皮肉をこめて述べるような際にも用いられることがあります。たとえば、「これはこれは、とんだご挨拶だね」のような例です。同じような使い方としては、「ご大層なこと」「わざわざご苦労様にも」などは、あざけつていう例です。

「これはまたご馳走様」は、仲の良さを見せつけられたようなときに、ほほえましく思ったり、からかったりする気持ちを表すものでしょう。ところで、冒頭に挙げた「挨拶」という言葉ですが、語源を知るとちょっと驚くこともあります。

実は、この「挨拶」は、仏教由来の言葉だと言われています。何かの折に取り上げたこともあったかもしれませんが、私たちが日常何気なく使っている言葉の中にも、案外仏教から来た言葉というものがたくさんあります。今回はちょっと意外なものも挙げてみましょう。

「玄関先でのご挨拶だけでもとは、なんと律儀なのだろう」

「端正な顔だちのうえに、分別、行儀もわきまえている

「馬鹿な意地を張っていないで、もっと自由なほうがいい」

この例文の太字は、みな仏教語由来の言葉なのだそう。ちなみに、先の「挨拶」を辞書で引きますと次のようにあります。

【挨拶】とは

《「挨」は押す、「拶」は迫る意で、本来、禪家で門下の僧に押し問答して、その悟りの深淺を試すこと》

1 人に会ったときや別れるときなどに取り交わす礼になつた動作や言葉。「挨拶を交わす」「時候の挨拶」
 2 会合の席や集会で、改まって祝意や謝意などを述べること。また、その言葉。「来賓が挨拶する」

3 相手に対して敬意や謝意などを表すこと。また、その動作や言葉。「転勤の挨拶」「なんの挨拶もない」

4 「御挨拶」の形で「相手の非礼な言葉や態度を皮肉つていう語。「これは御挨拶だね」(以下省略。コトバンク『デジタル大辞泉』(小学館)より)

ほかに、食事をする部屋、料理を出す店などの意味の「食堂」。こちらは、僧侶が食事をする所。また、そのための建物を意味する「食堂(じきどう)」からきたとされています。

さらにいくつか挙げますと、実際、安心、安楽、因果、自業自得、四苦八苦、世界、幸福などのほか、薬を与える意味の投薬など、枚挙にいとまがないほどです。それだけ、日常生活と深く結びついていることの表れともいえますね。



境内の蓮の花

普賢寺の歴史

普賢寺の縁起の詳細については、ホームページにある通りですが、当時の本所の区史にはどのように記されているかについて、ちょっと触れてみましょう。

国立国会図書館デジタルコレクション『本所区史』には次のようになっています。

「普賢寺は同町五十二番地に在り高龍山と號し明王院と稱した。天台宗にして浅草寺末である。文明元年僧良圓の開設に係り歌舞伎傳助所持の地藏尊がある。震災前迄本堂玄関傍に大碑があった。海保漁邨の墓碑で其の文は左の如くである。

漁邨海保府君墓碣 海保元起

この由緒ある寺も、昭和二年五月十八日付を以て府下北多摩村大字染谷字尾原に移る事になった」

タイトル 本所區史

著者 東京市本所区 編

出版社 本所区

出版年月日 昭和六



七葉

コトノハアレコレ

七葉

第四回「お中元」とは

この時期になりますと、デパートの特設会場でも「お中元」の売り場が設けられ、にぎわいを見せています。

さて、この「お中元」ですが、現在では先に述べたようにこの時期に贈る贈り物の風習を指しますが、元々は別の意味をもっていました。

「中元」とは、三元のひとつ。陰暦七月十五日の称。元来、中国の道教の説による習俗であったものが、仏教の盂蘭盆会(うらぼんえ)と混同されて、日頃の無事を祝い感謝するとともに、先祖崇拜の行事になったということです。このように「中元」とは、中国、道教の祭日である「三元」のひとつを指す言葉でした。三元とは、暦の一月十五日を上元、七月十五日を中元、十月十五日を下元。これらを合わせた呼び名のことを言います。その中元にあたる七月十五日が、仏教の盂蘭盆会と重なるために、祖先供養の風習とともに、日頃お世話になっている人に贈り物をする習慣に變化し根付いたとされています。

Info

参道の整備を行いました

昨年、参道の表は終えましたが、本年2月に裏の整備も行いました。杖をお使いの方や車椅子の方でも、安心なさっていただけますように。できるだけ段差をなくし、平らに石を敷き詰めました。

皆様に少しでもお楽にお参りいただくことができれば何よりと思っております。

